

阿佐谷南三丁目共同墓地・横川功家所蔵板碑



- 〔登録年月日〕平成二年三月三十一日
- 〔種別〕有形文化財（古文書）
- 〔名称〕阿佐谷南三丁目共同墓地・横川功家所蔵板碑
- 〔点数〕六基
- 〔所有者等〕個人
- 〔所在地等〕阿佐谷南三三五（共同墓地内）

阿佐谷南三丁目共同墓地・横川功家所蔵板碑

一基はほぼ完形に近いが、他には欠損がみられる。その造立年代と長さは次のとおりである。

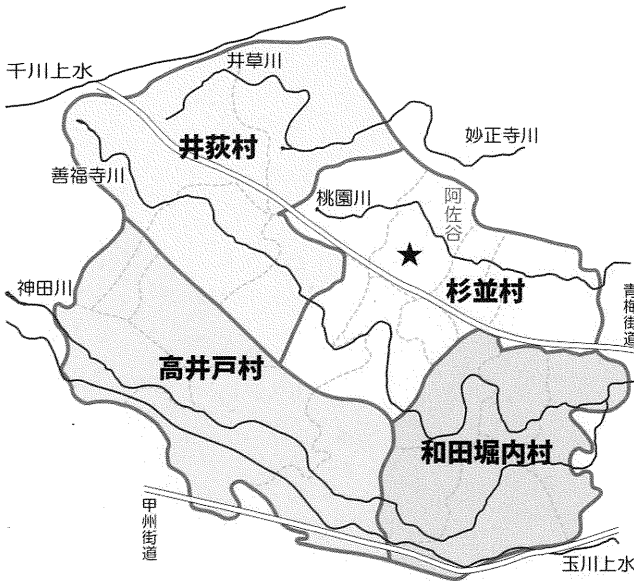
- | | |
|-------------------|---------|
| (一) 文和年代（二三五二〜五六） | 五〇 cm |
| (二) 不明 | 二五 cm |
| (三) 応永一二年（二四〇五） | 四七・五 cm |
| (四) 文安四年（二四四七） | 七〇 cm |
| (五) 文明四年（二四七二） | 三一・五 cm |
| (六) 不明 | 三二・五 cm |

(一)の板碑の年号は風化が激しく、正和（二三二〜一七）とも読めそうであるが、練馬区の例に文和二年（二三五三）銘で本例と同じ様式のものがあるので、ここでは「文和」と判読した。

この板碑は、中央に一花瓶を配し、その左右に年月日を刻む、一花瓶様式のものであるが、同様式の板碑は区内では阿佐谷を通る鎌倉街道と言われる道筋に沿って、延文・貞治頃（一三五六〜六八）のものが集中して存在している。そして、その多くは粗製品である。しかし、本板碑は極めて丁寧な製作で、区内では、はなはだ異色である。練馬区に同様な作例があることから、おそらく同一工人の手になるものと考えられる。

(五)の妙祐禅尼と刻む板碑は、同じ共同墓地内の北島家の正祐童子と類似した法号で、母子血縁関係の可能性をうかがわ

【文化財所在地】



せる。

また、(三)〜(六)の板碑四点は、墓地近くの工場で発見されたものと言われ、出土地点が特定できる貴重な例である。